

嶺南教育実践フォーラム

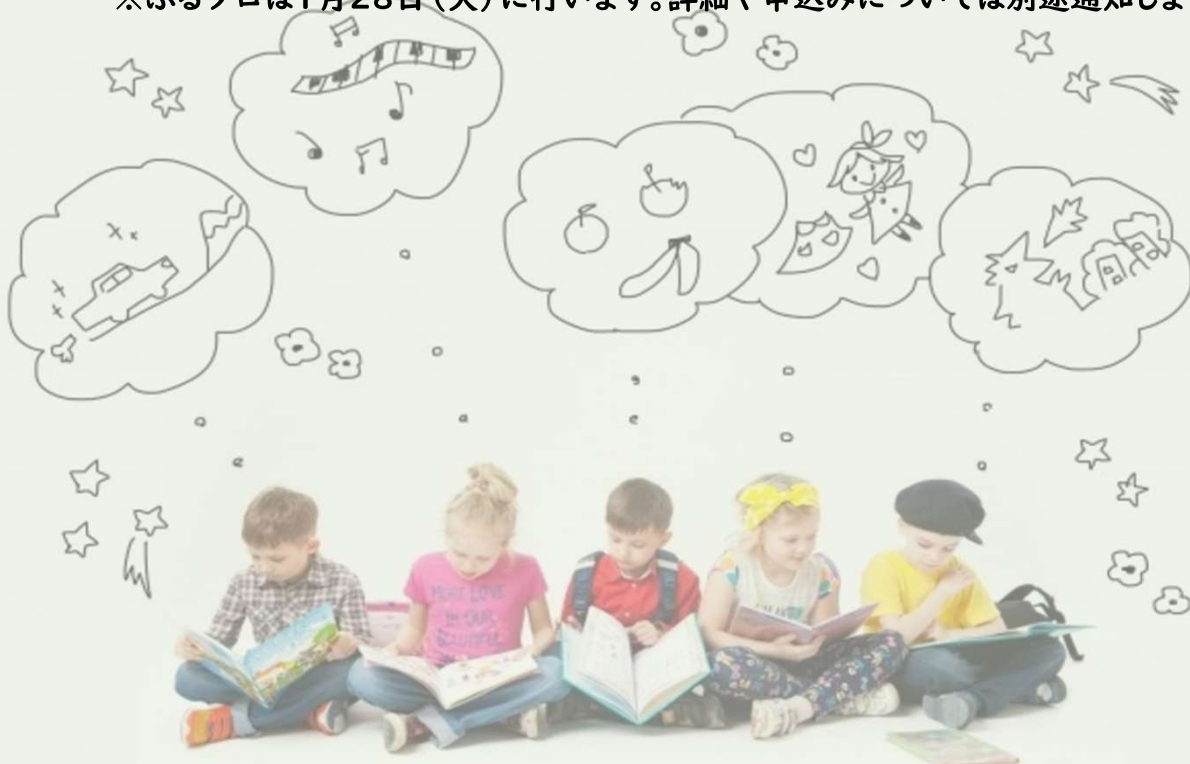
～ 夢と希望あふれる教育の創造と実践への挑戦 ～

第二次案内（参加者募集）

【特別講演】 2月7日（金）

【研究実践発表・交流】 2月5日（水）・6日（木）・7日（金）

※ふるプロは1月28日（火）に行います。詳細や申込みについては別途通知します。



R6開催テーマ “子ども”を学校の主語にする

学校はすべての子どもたちが主体的に学び、自信をもって生き生きと過ごせる場であってほしい。「一人一人の子どもを主語にする学校教育」とはいったいどういうことなのか。教師は子どもの姿から何を捉え、支援し、伸ばせばよいのだろう。教職員や学校ができることを一緒に考えませんか？

【嶺南教育事務所が育てたい「嶺南の子」】 ○自分と向き合い・考える子 ○自らつながる子

【特別講演】

主語を『子ども』に変えて 見えたもの

大空小学校 元校長

木村 泰子 氏



※プロフィール※ 大阪市立大空小学校の初代校長。全職員・保護者・地域の人々が一丸となり、障がいの有無にかかわらず、「全ての子どもの学習権を保障する」学校づくりに尽力する。著書に『「みんなの学校」が教えてくれたこと』『10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方～困った子は困っている子～』など多数。

フォーラムには先生や子どもたちが 主体的に学ぶためのヒントがたくさんあります！

テーマ
A 学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成 <ステージ 1～3>
知的好奇心や探究心を喚起し、一人一人の能力や特性に応じた学びの提供
について考える

テーマ
B 誰もが安心して学べる教育環境づくり <ステージ 全>
主体性を大切に、個性を最大限に伸ばすことができる環境づくりについて
考える

テーマ
C ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成 <ステージ 全>
ふるさとへの理解を深め、愛着をもち、継承発展しようとする心の育成につ
いて考える

テーマ
D 新たな時代を見据えた教育環境づくり <ステージ 2・3・管理職>
夢や希望を実現し、地域の担い手として活躍できる人を育む学校づくりにつ
いて考える



< 福井県教員育成指標 >
第1ステージ
教員としての基盤を固める
第2ステージ
中堅教員・ミドルリーダー
として教育活動を牽引する
第3ステージ
経験を生かして指導・助言し、
組織的な運営をする
管理職
トップリーダーとして教育活
動を推進する

セット受講が
オススメです！



同じテーマのセッションに複数参加してそのテーマの学びを深めたり、テーマ
の違うものに参加して視点を広げたり、セッションで学んだことをもとに特別
講演を聞いて教育の在り方について考えたり…。いろいろな形で学びをデザ
インしてください。

個別最適な学びの
スタイルで！



対面、オンライン、オンデマンドとさまざまな形態のセッションがあります。また、
話は聞きたいけれど、話すのは苦手…そんな方は「耳だけ参加」も可能です。
学校全体で同じ講演やセッションを聞いて語り合ったり、違うセッションに出
て学びを交流したり、各校での「協働的な学び」もおすすめてです。

R-café形式って？



このマークが目印です

「フォーラム」とは、多様な関係者が集まり、自由に意見や考えを交わす中で、知ら
なかったことを知ったり、新しいことに気づいたり、自分の実践を見直したりして、一人
一人が自分の学びを深める場です。

特に R-café形式のセッションでは、テーマに基づいた発表や話題提供を聞き、自
分の日々の実践を振り返りながら、思ったことや感じたことを自由に話し合うことを大
切にします。もちろん「耳だけ参加」も大歓迎です。ぜひ、気軽にご参加ください。

B-2 集団作り座談会 ～自己をみつめ、人と関わる力を育む～

B-3 「学校づくり」シンポジウム

A-6 「子ども主体の学び」座談会

R5 参加者の声

- ・講演を聞いて、子ども達主体の授業がどれだけ子ども達の深い学びにつながるかを感じることができた。
私自身が学び続け、子ども達にとって「学び合える学び」とは何かを追究していきたい。(小 20代)
- ・他県の先生方とお話しする機会はなかなかないので、本当に貴重な時間だった。(中 30代)
- ・異校種と交わることのできるブレイクアウトルームでの学びは大変良かった。(小 管理職)
- ・事務職員としての経験が浅い私にとって先輩のお話を聞ける貴重な機会だった。(小 事務職)
- ・教科の本質に迫る「見方・考え方」に焦点化した研究が素晴らしかった。岡山の学校にも紹介したい。
(岡山県 教育機関)

タイムテーブル

2月5日 (水)				2月6日 (木)				2月7日 (金)			
1 研	2 研	3 研		1 研	2 研	3 研		1 研	2 研		
13:30			13:30				13:30				
13:40			13:40				13:40		受付		
13:50			13:50				13:50				
14:00		受付	14:00	受付			14:00				
14:10			14:10				14:10				
14:20	受付	[B-1] 14:10~14:50 松原小学校 校内サポーターチーム支援員 山本 敬介	14:20	R-cofé形式② [B-3] 14:10~15:10	受付	[A-4] 14:10~14:50 嶺南教育事務所 研究員 柿本 尚之	14:20				
14:30		<児童支援> チー△松原小による児童 の学校復帰支援について～ 効果と展望～	14:30	<不登校・学校△△△> 学校△△△△△△△△△△ ～嶺南出身の大学生が振 り返る小中高校生活と、み んなで考える“子ども”が 主語の学校」の展望～	受付	<小学校国語> リフレクション型国語科授 業	14:30				
14:40	[A-1] 14:30~15:10 嶺南教育事務所 研究員 坊 達也		14:40	[A-5] 14:30~15:10 嶺南教育事務所 研究員 高橋 知明			14:40	受付			
14:50	<中学校社会> 子どもが自ら追究する社 会科の単元デザイン		14:50	(話題提供) 福井大学学生			14:50				
15:00			15:00		<ICT活用> 学びに生かす△△△△△ ～△△△△△△△△△△△△ 組みを通して～		15:00				
15:10			15:10				15:10				
15:20	受付	受付	15:20			受付	15:20				
15:30			15:30				15:30				
15:40	受付	R-cofé形式① [B-2] 15:30~16:30 嶺南教育事務所 研究員 太田 翠 「自己をみつめ、人とわか わる力」を育む△△△△△ ～△△△△△△△△△△△△ ～	15:40	受付	受付	R-cofé形式③ [A-6] 15:30~16:30 小浜第二中学校 教諭 板谷 奈穂子 廣瀬 俊則 早 貴文	15:40				
15:50	[A-2] 15:50~16:30 嶺南教育事務所 研究員 東條 麻衣子	[A-3] 15:30~16:30 西津小学校 教諭 大下 芳徳	15:50	[A-7] 15:50~16:30 上中学校 教諭 窪田 朋亮	[B-4] 15:50~16:30 香見小学校 教頭 夢田 昌代 教諭 水戸 秀昭	<子ども主体の学び> 自己調整力の発揮	15:50				
16:00	<小中学校連携> Which型発問×3観点の 問い返しによる道徳科授 業作り～全員参加で△△△ 感△△△△△△△△△△△△ 業を目指して～	(話題提供) 気比中学校、大飯中学校 名田庄小学校、三宅小学 校、野本小学校 集団作り座談会～自己をみ つめ、人とわかわる力を育 む～	16:00				16:00				
16:10			16:10	<中学校探究> 総合的な学習の時間にお ける△△△△△△△△△△ 賞賞・能力の自己評価	<特別支援> 誰一人取り残さない学校 づくり～授業改革を核とし た3年間～		16:10				
16:20			16:20				16:20				
16:30			16:30				16:30				

◆2月5日(水)ーオンラインー

コード	日時	テーマと概要
A-1 	14:30 ～ 15:10	中学校社会 子どもが自ら追究する社会科の単元デザイン 嶺南教育事務所 研究員 坊 達也 今年の研究では、自ら課題を追究する子どもの姿を目指して研究してきました。そのために、課題を追究する過程を子ども一人一人が選んで学びを進められる複線型の単元デザインが必要だと考えました。すべての子どもが社会科としての学びを深めていけるよう見方・考え方に着目するとともに、学習への見通しを持ち、自分の学びを振り返ることのできるOPPAを用いたワークシートを活用して授業を実践しました。単元デザインの具体と、実践で見た子どもの姿から考察したことを発表します。
		児童支援 チーム松原小による児童の学級復帰支援について～効果と展望～ 敦賀市立松原小学校 校内サポートルーム支援員 山本 敬介 サポートルーム利用児童に対する支援は、児童の直接支援に携わるサポートルーム支援員の実践によると考えられがちです。しかし、実際は児童に関わる学級担任をはじめ、学校内の先生方の何気ないと思われる実践が複合した結果が、児童の学級復帰に大きく寄与しています。 この発表では、私個人の実践例よりも、各先生方のサポートルーム利用児童に対する実践例を中心として報告をし、その効果と展望を考察したいと思います。
B-2 	15:30 ～ 16:30	集団作り(R-café形式) 集団作り座談会 ～自己をみつめ、人とかかわる力を育む～  話題提供: 敦賀市立気比中学校 おおい町立大飯中学校 おおい町立名田庄小学校 若狭町立三宅小学校 若狭町立野木小学校 学びに向かう集団となるには、自己存在感や自己有用感を持ちつつ、他と協働できる力が必要です。ウェルビーイングを自ら求める力を子ども達に育むにはどうしたらよいのでしょうか。研究員の発表や話題提供をもとに、日々の取り組みや悩みを交流し、学校でできることを共に探りましょう。
		「自己をみつめ、人とかかわる力」を育む」～ピア・サポートで心をつなぐ～ 嶺南教育事務所 研究員 太田 翠 子どもたち一人一人が「なりたい自分」に向かって、より豊かに人間関係を築く力を育むことを目指して研究しました。行事を核としたピア・サポート活動を取り入れ、子どもたちが自己と他者への理解を深めるとともに、自尊感情を高めながら人とかかわる力を伸ばしていけるような場を計画的・継続的に設定しました。子どもたちの取り組みの姿やふりかえりの言葉から見えてきたことを考察し、発表します。
A-2 	15:50 ～ 16:30	小中学校道徳 Which型発問×3観点の問い返しによる道徳科授業づくり ～全員参加でライブ感とストーリー性のある授業を目指して～ 嶺南教育事務所 研究員 東條 麻衣子 自分の言葉で語り合い、多様な考えを受け入れながら、自分を見つめて多面的・多角的に深く考える子どもの姿を目指し、子どもが主体の道徳科授業を研究しました。子どもが選択・判断するWhich型発問を話し合いの入口にすることで、全ての子どもたちが参加し、考え、話し合う観点を共有できるようにしました。さらに、子どもたち同士の学び合いを促進・深化するような問い返しを追究して授業づくりを行いました。子どもたちの学びの姿から、考察したことを発表します。
A-3	15:30 ～ 16:30	小学校外国語 小学校外国語科(英語)の挑戦 ～海外とのオンライン交流学習を通して～ 小浜市立西津小学校 教諭(英語専科) 大下 芳徳 海外とのオンライン交流学習を行う中で得られた成果やそこで感じた課題について発表します。また、小中連携を意識し、「楽しい」と「分かる」の両立を目指した授業づくりについても参加者とともに考えたいです。Let's enjoy English together!

◆2月6日(木)ーオンラインー

コード	日時	テーマと概要
B-3	14:10 ～ 15:10	不登校・学校づくり(R-café形式) 学校づくりシンポジウム ～嶺南出身の大学生が振り返る小中高校生活と みんなで考える「“子ども”が主語の学校」の展望～ 
		不登校者数が過去最高を更新し、学校の在り方の問い直しが求められています。子どもが通いたくなる学校とは、子ども達が安心して過ごせる学校とは、楽しく学ぶことができる学校とは、どんなものなのでしょう。 本セッションでは教職を目指す現役大学生から「小中学生、高校生時代に感じていたこと」「学校はこうあってほしい」「教師になったら大切にしたいこと」等、教育への熱い思いを聞き、それをもとに「“子ども”が主語の学校」や「学校のこれから」について語り合いたいと思います。
A-4	14:10 ～ 14:50	小学校国語 リフレクション型国語科授業 嶺南教育事務所 研究員 柿本 尚之
		子どもが主体的に学習に取り組むためには、「問い」を持つことが大切だと考えます。これまでも、子どもの初発の感想から「問い」を立て、授業を行ってきましたが、主体的な学びには十分につながらないという課題がありました。そこでリフレクション型国語科授業を取り入れ研究を進めました。リフレクション型国語科授業とは、子どもが「問い」をつくり、「問い」で読み合い、「問い」を評価する学習サイクルです。リフレクション型国語科授業を取り入れることで、子どものどのような姿が見られ、どのような学びがあったかを発表します。
A-5	14:30 ～ 15:10	ICT活用 学びに生かすふりかえり ～クラウドを活用した取り組みを通して～ 嶺南教育事務所 研究員 高橋 知明
		子どもたちは、何のためにふりかえりをするのでしょうか。次の学習につながるふりかえりをさせたいという思いをもって研究に取り組みました。子どもたちが、自他のふりかえりを参照しながら、学習したことを深め、学習内容を確認したり、前の学習内容とつなげたりしながら活動できることを目指して工夫をしました。ふりかえりの質を高めるための教師の働きかけや、子どもたちがクラウドを活用して学んだことから見てきたものをお話します。
A-6	15:30 ～ 16:30	主体的な学び(R-café形式) 「子ども主体の学び」座談会 
		今、教育の在り方が大きく転換しています。子どもを主体とした学びにしていこうと思ったらよいのか、教師は学びの伴走者としてどうあるべきなのか、など悩みは尽きません。このR-caféでは、小浜第二中学校の発表をもとに、日々の取り組みや悩みを共有し、学校における学びのこれからを共に考えたいと思います。
A-7	15:50 ～ 16:30	自己調整力の発揮 小浜市立小浜第二中学校 教諭 板谷 奈穂子 廣瀬 俊則 早 貴文
		小浜市には昭和の時代から大切にされてきた3S学習(ひとり調べ→みんな調べ→振り返り)という教育理念があります。本校ではこの理念を継承しつつ、市の授業力アップ研究指定(R5、6)を機に、一人一台端末を使った授業DXを進めながら、自分の課題を探究サイクルの中で解決していく「令和型」3S学習の実現に向けて試行錯誤しています。「レギュレイトフォームを使った自己調整力の育成」「探究サイクルの視点からデザインした単元構成」「ICT活用で生まれる協働」をキーワードに、国語・社会・理科の授業実践を発表します。また、教科担任制という中学校の現場で、学校全体でどのように研究実践を進めていったのかもお伝えします。
A-7	15:50 ～ 16:30	中学校探究 総合的な学習の時間におけるルーブリックを活用した資質・能力の自己評価 若狭町立上中中学校 教諭 窪田 朋亮
		上中中学校では、学校の教育目標「社会の中で自分らしく生きるための資質・能力を育てる」のもと、総合的な学習の時間に「My探究」と題した年間を通じた個人探究活動を行っており、今年で4年目を迎えます。これまでの実践を通じて試行錯誤を重ねる中で、生徒が主体的に学べる環境づくりの一環として、今年度は資質・能力の評価にも挑戦しています。具体的には、ルーブリックを活用した資質・能力の自己評価を導入し、教師と生徒がこれを共有しています。今回の発表では、本校の実践紹介から、評価の共有により生徒の学びに向かう姿や教師の伴走者としてのかわり方にどのような変化が生じたかを共有したいと考えています。

B-4	15:50 ～ 16:30	特別支援 誰一人取り残さない学校づくり ～授業改革を核とした3年間～ 敦賀市立沓見小学校 教頭 多田 昌代 教諭 水戸 秀昭
		令和4年度から学校全体にICTを積極的に取り入れ、自己表現の推進を図ってきました。令和5年度には、このICT活用を基盤として積極的に協働学習を導入し、全員を大切にする授業実践に取り組んできました。そして、今年度は自己理解と自己調整を重視した「自立した学習者を育てる」というテーマのもと、実践を積んでいます。この3年間の取り組みは誰一人取り残さない学校づくりという共通認識のもとにあります。中心となったのは授業改革です。教師主導の一斉授業ではなく、子どもが主体となる学びへのアップデート。教師は知識の教授者ではなく、学びの伴走者に。本校の土台にあるのは、まさに特別支援教育の理念といえます。

◆2月7日(金)ー集合・オンラインー

コード	日時	テーマと概要
C-1	13:50 ～ 14:30	地域連携 「なすこことによって学ぶ」若狭東高校 ～20年後の若狭地域を見据えて～ 福井県立若狭東高等学校 教諭 濱野 美和 太田 祐貴
		本校では学校祭をはじめとして、2年前から始めたチルフェス(子ども食堂)やFeast(文化部合同イベント)、加えて今年度開催したGreen Project(芝の苗植え)を通して、地域に向けた学習発表の場を多く設けています。平素の学びや活動を地域のあらゆる世代の方々に披露する中で、生徒たちが仲間との準備や人との関わりから学びや自信を得て、たくましく成長していく姿がたくさん見られるようになりました。また、嶺南地域の小中学校との協働の機会が増えてきました。本発表では、本校の取り組みを紹介し本校への理解を深めていただくと共に小中高の連携、その可能性について、先生方と省察し合う機会にしたいと思います。 <u>※嶺南教育事務所での集合セッションです。オンラインではありません。</u>
SL	14:50 ～ 16:30	特別講演 主語を『子ども』に変えて見えたもの 大空小学校 元校長 木村 泰子 氏
		大空小学校で様々な子どもたちと真正面から向き合ってきた木村先生が、どんな状況においても守り、大切にしてくられた信念についてお話をいただきます。そこから我々は自分の1年間やこれまでの教員生活を振り返り、子どもを学校の主語にするとはどういうことか、明日からの自分や学校がどうあるべきか考え、語り合うことで、次(来年度)への一手を決めていく糸口を見つけていきたいと思っています。 <u>※集合型で開催致しますが、オンラインでの参加も可能です。後日オンデマンド配信も行います。</u>

◆オンデマンド(YouTube) 期間中いつでも、パスワードなしで視聴できます。

コード	テーマと概要
C-2	自然体験 里山里海湖の学校教育プログラム・講師派遣のお知らせ 福井県里山湖研究所 主任 橋向 隆行
C-3	自然環境 ふるさと福井の宝「水月湖年縞」と年縞博物館 福井県年縞博物館 主任 北川 淳子
C-4	自然体験 びわこのすべてを感じるミュージアム 滋賀県立琵琶湖博物館 横山 泰史



【申込みについて】 申込締切：令和7年1月22日（水）17:00

フォームによる申込み

1

下記URLまたはQRコードから
「参加申込フォーム」にアクセス。



2

画面の案内に従って必要事項を
記入し、送信。



3

参加受付のメールが届く。

URL <https://forms.office.com/r/zgxgTgFFtD>



<注意事項>

- ・必ず管理職の許可を得てからお申込みください。
参加者については、各校での把握をお願いします。
- ・オンラインセッションは原則一人一台端末での参加をお願いします。
- ・一台の端末で複数名参加する場合も、参加する方全員の申込みをお願いします。その際は、申込みフォームの例に従って備考欄に記入をお願いします。
- ・SL：特別講演は、「集合」「オンライン」「オンデマンド」を選択してお申込みください。申込み状況によっては変更をお願いすることがありますのでご了承ください。
- ・「耳だけ参加」を希望される場合も、申込みフォームの例に従って備考欄に記入をお願いします。

<申込みの変更等について>

- ・申込み手続き終了後に変更のある場合は、研修課まで電話で連絡をお願いします。
- ・欠席の場合の欠席届の提出は必要ありません。
- ・フォーラム終了後、参加された方の研修履歴を全国教員研修プラットフォーム「Plant」にアップします。
(県内の職員番号のある教職員の方のみ)

【参加について】

<参加に必要な情報について>

申込み時にお知らせいただいたメールアドレスに以下のものを通知します。1/30までに届かない場合は担当までご連絡ください。

- 各セッション等への参加に必要なID、パスコード
- 発表資料等のダウンロードに必要なパスワード
- 事後アンケートのURL

<受付時間と接続時の表示名について>

受付時間…セッションの20分前から

表示名……1人1台で参加される場合

1台の端末で複数名の方が参加される場合

受講確認に必要ですので、
表示名の確認をお願いします。

所属_氏名

所属_〇名

※参加中の録画・録音・撮影はご遠慮ください。

※本フォーラムに関する個人情報、ID、パスコード、資料等の取り扱いには十分ご配慮ください。

【各セッションで使用する資料等について】

- ・嶺南教育事務所HPよりダウンロードしてください。ダウンロードに必要なパスワードは、メールにてお知らせします。
- ・各資料は準備ができたものから随時アップしますので、ご了承ください。
- ・各資料は参加されないセッションのものもダウンロードすることができます。
- ・フォーラム終了後もしばらくダウンロード可能です。学びを広げるためにご活用ください。

ダウンロード期間：1/29(水)～3/10(月)

<事前視聴について>



プログラムにこのマークがあるものについては、事前に発表動画を視聴していただき、その内容をもとに当日の意見交流、情報交換を行うセッションです。動画視聴後、質問や感想を事前に送っていただけますとよりよいセッションにつながりますので、ご協力をお願いいたします。

【その他】

<オンデマンド配信について>

- ・以下のものについては、期間中(1/29～3/10)、嶺南教育事務所HPから、どなたでも視聴することができます。
 - C2: 里山里海湖研究所
 - C3: 年縞博物館
 - C4: 琵琶湖博物館
- ・SL: 特別講演のオンデマンド配信は、フォーラム終了後、準備ができ次第配信します。嶺南教育事務所HPよりパスワードを入力してご視聴ください。

<接続について>

使用する端末のOSとZoomアプリを最新の状態に更新しておくなど、使用機器の準備、調整をお願いします。

<事後アンケートについて>

事前にメールで送付されたURL、またはセッション終了後に表示されるQRコードから事後アンケートをお願いします。

1台の端末で複数名が参加された場合も、参加された方全員の回答をお願いします。

※ご不明な点がありましたら、研修課までお問い合わせください。



【担当】 福井県教育庁嶺南教育事務所 研修課 倉谷 智子
〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205 TEL 0770-56-1302
FAX 0770-56-1391 E-mail t-kuratani-dz@pref.fukui.lg.jp